No.140

中部教区通信

編　　集　日本キリスト教団中部教区
　　教区通信編集委員会
発行人　横山　良樹
発行所　〒461-0009
　　名古屋市東区久屋町8の6
　　日本基督教団中部教区事務所
電　　話　（052）971－8497
Email　ckyo@quartz.ocn.ne.jp
振替口座　00830-7-52037
Homepage　http://uccj-chubu.com

キズナヘンゲ

ヨハネによる福音書二十章二四節～二九節

各務原教会牧師　杉本 和道

他人の傷口に指を突っ込む。血の苦手な私は御免こうむりたい。イエスの手足には釘の跡が、額には荊冠の傷が、わき腹には槍で貫かれた跡があった。さて、イエスの傷跡に指を差し入れたときトマスは何を思ったのだろう？

トマスは、「イエスが復活した」と聞かされても《この指を釘跡に入れてみなければ…わたしは決して信じない》（ヨハネ二十・二五）と疑った。トマスの心には単純な「疑い」だけが満ちていたのだろうか？

イエスの傷跡はトマスにとって見たくないものだった。「ああ、あのとき自分はこの人を見捨てて逃げ出した」「もし、あのとき自分がもう少し頑張っていたら、この人はこの傷を受けずに済んだのではないか」と十字架を前にして自分が逃げ出したのを思い出し、心が締め付けられるからだ。

トマスにとってイエスの傷は、イエス自身の痛みのしるしであるのにとどまらず、トマスに自身の弱い姿を突きつける鏡だった。

今、イエスの傷を前にして過去が迫ってくる。それは、深い悲しみをトマスの中に刻みつけた。トマスもまた傷を負っていたのだ。心の深いところに。イエスの傷を見るたびその傷が開くのだ。後悔だけではない。悲しみや憤り、挫折や喪失、様々な事柄のなかで私たちは傷ついていく。心の深いところに塞がらない傷口を刻んでいく。

イエスとトマスを傷がつないでいた。

断つことのできない人と人との結びつきを絆と言う。絆という言葉の由来は、「頸綱（くびつな）」「騎綱（きづな）」「繋綱（つなぎづな）」といった馬や牛などの動物を繋ぎ止めておく綱のこと。自由を奪われるような、締め付けられるような痛みがある。

トマスにとって、イエスに刻まれた傷跡は、まさに、自分とイエスとを繋ぎ止めるキズナだった。イエスの傷の痛みを知るならば、その傷跡に指や手など入れることなどできない。イエスと自分をつなぐ絆は傷（傷み）なのだから。イエスを十字架につけたのは「わたし」。十字架の前から逃げ出したのは「わたし」。イエスとの「キズナ」を前にして自らの仄暗さに気づかされる。

《あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい》。

トマスが手を伸ばす。傷に触れるために。手は震え、口は渇く。指は真っ直ぐ進むことができない。しかし、キリスト・イエスの声が導く。「ここに触れなさい。安心しなさい。この傷は、あなたを責めるためのものではない」「あなたの本当の姿を露わにするが、そこに繋ぎとめておくためのものではない」「罪を赦し、罪という不自由から、解き放つためのものだ」と。

トマスは、そっとキリストの傷に触れる。このとき「傷」は意味を変えた。トマスはキリストの傷に触れて知る。キリストの傷は、トマスの生の姿を写す鏡であると同時に、そこから解き放つ窓でもあった。

キリストを知るとはキリストの傷に触れること。キリストの傷という己の本当の姿を写す鏡を見て、「あぁ、わたしはこんなにも歪んでいたのか」と認めると同時に「あぁ、こんなわたしを赦すために、癒すために、救うために、キリストが傷みを背負ってくださった」と赦しの中を歩み出すこと。

真実に赦された者は他者を赦す者へと変えられていく。「わたしが赦されたように、わたしもこの人を赦そう」と。傷が他者を赦す力となる。《信じない者ではなく、信じる者になりなさい》、これは「何も考えるな」という意味ではない。傷が、本来見たくもなく、思い出したくもない、痛みだけだった傷が、人を赦し、人を愛していく絆に変えられていくことへの招きだ。

あなたも変わる。傷を抱えたままでも変わることができる。人を赦し、人を愛する者へと。

按手礼式挙行

2018年11月23日、金沢教会にて２名の按手礼式が横山良樹議長の司式により行われました。石川地区の教師のみならず、福井地区や富山地区などからも教師らがかけつけ、また多くの信徒らに見守られながら、厳粛な雰囲気の中で執行されました。

北陸学院　梅田真琴

神様の恵みと導きによって按手を受けることができました。この時までの歩みを神様が守り導いてくださったこと、そして、どれだけ多くの教会の方々の祈りに励まされ支えられて歩んでこられたかを思い起こし、感謝いたします。

按手の時、先輩の正教師の先生方の手が頭に重くのしかかってきました。その手の重さはもちろん、その重みは先生方の祈りの重さ、そして正教師としての使命の重さであると感じ、神様の召しを新たに受け止めました。

北陸学院小学校に遣わされ、子どもたちに御言葉を語ってきましたが、伝道の喜びと共に困難もあり、自らの弱さを感じることもありました。しかし、そんな小さな器をも主は用いてくださり、正教師へと召し出してくださいました。小さく欠けの多い者ですが、神様の恵みに感謝をし、地域諸教会との先生方との交わりの中で、学校の牧師として、学校と地域諸教会に誠実に仕え、御言葉を語って参りたいと思います。

桜木教会　牧野　純

「待っとんたんやー」という声に迎えられて、初めての訪問聖餐は始まった。相好を崩す声の主は九十歳の教会員。欠かさず礼拝に集っておられたが、高齢のため半年程前から教会に来ることが出来なくなっておられた。クリスマスの諸集会が終わった直後に伺うことが出来た。礼拝のみならず聖餐に与る機会もしばらく得なかったこの方は、この時を心待ちにしておられた。主イエスにあって主に在る兄姉と一つとされる聖餐に自分も与りたいとの思いがこの言葉になって出たのだ。

聖礼典は多くの場合、教会で行われる。だが、それを心待ちにしている方々がいるということを強く知らされた瞬間であった。

按手を受けて聖礼典執行が許される身となった。今回の出来事から、教会内での執行にとどまらず、心待ちにしている方々のところへ遣わされていくことも聖礼典執行の重要な使命であると考えさせられた。

按手を受けたばかりの私であっても、主は召し遣わしてくださっているのだという思いに身が引き締まる思いである。

着任して　ひとこと

豊田教会　江連（えづれ）　実

十月の半ばに引っ越してきて、十一月から正式に、豊田教会の牧師になりました。江連実と申します。

最初の任地は奄美大島にある名瀬教会でした。十一年いて、仙台北三番丁教会に転任し、十年働いて、豊田教会にまいりました。

夏は奄美よりも熱いのでびっくりですが、冬は仙台よりも暖かく、雪もほとんど降りませんから、大変過ごしやすく、喜んでおります。綺麗で可愛らしい礼拝堂で毎週礼拝できることに感謝しております。

教会としての課題は、牧師が長く安定して牧会することでしょう。まずは、じっくりとこの地域と教会に慣れて馴染んで、あせらず、いそがず、のんびりとやっていこうと思います。牧師室の窓から見える広々とした畑や、美しく変化する夕方の風景を眺めながら毎日過ごしております。

そんな中、クリスマスには若いお母さんと赤ちゃんが洗礼を受けました。教会員一同と共に、喜んでおります。

ろばの声

原稿依頼を受け、以前書いたものを探すと、あった。二〇〇七年、その年の能登半島地震のことを書いていた。高岡は公式には震度2だが、地震の多い地で育った者には、４近くとしか感じられなかったことを思い起こす。なのに、それについての文章を書いたこともすっかり忘れてしまっていた自分もいる。あれから早十二年。その間も毎年のように様々な災害や試練、事件があった。人が過ごすのは、一方で混乱と忘却が混じり合った日々のように見える。

ルカ福音書の連続講解説教を行っている。少年イエスさまが両親に連れられエルサレム神殿に行った物語。それはイエスさまが十二歳の時。ユダヤにおいて一人前の大人の仲間入りとされる年齢だった。クリスマス物語から一気に十二年を経て、少年イエスさまの姿を伝える唯一の記事となるわけだが、その間も、聖霊なる神さまがマリアを用いて始めた業はしっかりと動き続けていたと知らされる。

人の混乱と忘却を超えて働く神さまのみ業がもう一方にしっかりとあることを思う。

高岡教会　風間宣夫

牧会者への牧会は
「牧会の本質に係わる鉄則」
教師研修会

十一月十九日(月)から二十日(火)にかけて、教師研修会が行われました。今回は主題への関心が高かったのか、久しぶりに五十名を超える参加申し込みがあったことに感謝。講師は長年牧会カウンセリングに携わっておられる堀肇先生(日本伝道福音教団・鶴見恵キリスト教会牧師)でした。

「現代における牧師のメンタルヘルス」という主題で、一日目は「セルフケア」について話されました。牧師が牧会していく中で、種々の負担を抱えることが多いこと、更に我慢しきれなくなってしまう事例が多い。そこで必要となってくるのが霊的導き手によるケア、魂の同伴者だということでした。

二日目は「ライフ・サイクルへのケア」として、神学生、牧師として働くほとんどが青年期から中年期にあることから、「青年期における自我同一性の確立」と「中年クライシス」を中心に話されました。青年期における自我同一性の確立は時間がかかる一方で、中年期にはそれまで積み上げてきた価値観の修正が求められる場合が多く、世代的に諸団体の中での働きや責任が重くなる時であることを考えると、負担が多くなり、不安定な状況になりやすい。

そういった中で安心して心の内を打ち明けられる関係の構築が求められます。お互いに魂への配慮が大切であり、諸問題を共有し、支え合えるような関係の友（牧師会）の存在が不可欠です。「友を作って下さい」と締めくくられたことが印象的でした。会場の長島温泉も素晴らしく霊肉共に養われたことに感謝。

教師部　阿部啓

礼拝音楽講習会in金沢

2018年9月23日（日）～24日（月）、金沢教会（主会場）、金沢長町教会、若草教会、北陸学院中学校・高等学校において開催されました。

この講習会は、毎年東京で開催されているキリスト教音楽講習会が、90周年を迎えて企画された地方講習会です。90周年とはいえ、準備運営は全て開催地域となるため、有志のメンバーによって実行委員会が立ち上げられ、日本基督教団出版局と日本基督教団中部教区教育部のご支援のもと、石川地区、富山地区、福井地区の礼拝音楽担当のご後援、北陸学院中学校・高等学校のご協力を頂き、開催する事が叶いました。

この講習会では、幅広い要望に応えられるようにと、専門的なオルガニスト養成コースから、賛美歌を歌うコース、礼拝学コースなど、牧師や教会役員（長老・幹事）、信徒が参加しやすい集会を目指しました。この為、参加者の中には、オルガンを触ったことの無い方もいらっしゃれば、オルガンを始めたばかりの中学生もおられ、55名という東京や関西、長崎の講習会よりも多くの方が参加してくださいました。

1日目の主題講演では、北陸学院学院長の楠本史郎先生より、「礼拝における賛美」について示唆に富んだ講演が行われ、改めて礼拝が主との生きた交わりになっているのかを考えさせられました。また、講師として立ってくださった、志村拓生先生、椎名雄一郎先生、柴田　愛先生、井ノ川勝先生からは、実技だけでなく、日本の賛美歌の歴史や世界各地の賛美歌など、豊かな交わりを通して、多くの事を学ぶことが出来ました。

小さな教会の多い北陸ですが、これからも豊かな交わりと、きめ細やかな育成を大切にしていきたいと思います。

実行委員長　浦上　充

CSは金太郎アメのごとくに

1月14日（月・祝）名古屋教会幼稚園を会場に、CSスタッフ研修会が行われ15教会54名（愛知東地区３教会）のＣＳ教師が参加しました。

今年度は講師に日本基督教団キリスト教教育主事の筧伸子先生（茨木東教会）をお迎えしました。祈り・讃美をもって会は始まり、自分の教会に集う子どもたちの顔を思い浮かべながら、先生のお話に耳を傾けました。

福音を明確に語ること、子どもの心に残したいことをひとつに絞ること、子どもたちの成長段階に目をむけること、子ども自身が信仰の決断に導かれるように祈って終わること、教師は分かち合い祈り合うこと。と言葉を重ねられました。また、ワークショップでは互いに話し合うことの大切さを学ぶことができました。

先生のお話はとても真っすぐです。神様に向かって。それゆえにはじめはとても厳しく感じました。そして“私には聖書の言葉を子どもたちに話すことができない・・のではないか。”との思いさえ沸いてきたほどです。しかし、それこそが過ちでした。『私が神と出会って共に生きる喜びを伝える』『欠けた器の私でも用いてくださることに感謝して働く』『なすべきことの後は神にゆだねる』と原点を示され力を得ることができたように思います。“どこを切ってもイエス様が出てくる金太郎アメ”神様の愛につながる教会学校へのよき気づきの時となりました。今回の研修会は、中部教区教育部と愛知西地区教会教育委員会の共催により実現いたしました。感謝いたします。

愛知西地区教会教育委員会　金森　淑英

『障がい者と教会』交流集会

生きつらさはどこから～依存症から考える～

十月に福井の丸岡教会で交流会が開かれました。名古屋ダルクから柴真也さんら、三方が語って下さった内容からいくつか引用・要約してご紹介させていただきます。

『薬物だけでなく、アルコール、ギャンブル、ネットの課金など依存症が拡がっている。特に未成年者の心身の破壊は強烈』『人と心を分かち合い、食など生活を整えて、心と魂の健康を取り戻し、人生を取り戻さなくては…』『自分を否定し、ずっと自分を責め続けてしまう。そこへ他人から説教と批判を浴びて、立ち上がれない』『教会と出会い毎日、祈った。自分の情けなさ不完全さを受け入れられなかった。聖書は不完全、ありのままでいいと語ってくれ、力がようやく抜けて来た』『傷つけ合いでなく、安全な人・安心な居場所、不完全さを語り、分かち合える場所＝分かち愛いで』

ごく普通の青年が、ふとした切っ掛けでドラックと出会ってしまい、薬物依存地獄から、途方もない苦闘と年月をかけて、回復し、今は、同じ苦しみの中にいる方に回復の手を伸べていらっしゃるご様子や、予防啓発のために身を粉にして活動されている様子を伺い、参加者一同驚嘆しました。

インターネットの普及で、地方でも普通の青年が簡単に依存への誘いの手に陥ってしまう現代です。ぜひ、教会や学校・地域で、依存症予防啓発ダルク講演・広報などご協力下さい。

飛騨高山教会　水谷恵子

役員研修会に参加して

「神の栄光をあらわす教会会計」の主題に惹かれ、小松から蒲郡へと車中の人となった。

会計長老となって二年目。一年目は無我夢中の中で過ぎ、ようやく会計自体を学ぶ時が来たとの思いで参加した。計上方法などの具体的指導を思い描いていたが、その点に関しては期待からはずれてしまった。その上、北陸からの参加者は私一人で、心細さがチラリ。しかしながら、黒田牧師による講演内容は期待外れの思いを拭い去り、信仰に生きる会計、神にのみ頼るべき会計の本質を知らされ、新しく生まれ変わったような清々しい思いを抱いた。

講演の中で一番心に留まったこと。それは、教会の会計は神様が支えて下さるという「信仰」によって立つのが、教会会計の健全な姿であるということ。会計を支えているのは神様の意志であり、必要なものは必ず神様が満ち溢れさせてくださる。その為に神様は、献金するという心を与えて下さるということ。神様のみに頼ること、献金はとても大切な喜びの業であること。

毎月の会計決算時、どうしたら賄えるかと要らぬ思い患いをしていたことを、今恥ずかしく思い出されるのです。

「神様に頼る」それは当然のこと知りながら、それでも何処か頼りきっていない自分がいた。信仰の弱さを明るみに出され、『新しく生まれ変わりなさい、私が傍にいるから』と歩むべき道を指し示された私。

ご講演くださいました黒田牧師、又この研修会開催にご尽力くださいました方がたに、心から感謝申し上げます。

小松教会　田中尚美

日韓交流ツアー

第6回目の交流ツアーを開催することができたことを神に感謝いたします。年毎に私たちが韓国へ行き、韓国の方たちを日本にお迎えすることを繰り返し、両国の間に橋を架けてきました。今年度は日本にお迎えする番。昨年度、私たちは韓国でセウォル号沈没事故の関連施設や関係者の方々との交流を中心に据えたプログラムでツアーを行いました。同じ年頃の青年たちが関わった事故であったため、参加した日本の青年たちへの感化は大きく、今年度のプログラムはそれを受けた上で「韓国の青年たちに何を持って帰ってもらうのか」という事を中心に考え、委員会はプログラムを組み立てました。

結果、今年度は東日本大震災を見据えつつ、片岡輝美さん（会津放射能情報センター代表）を講師に迎え、福井県の美浜原発のフィールドワークを行いました。委員会は原発問題がどのように韓国の青年に響くのか一抹の不安はあったものの、ツアーの中で青年たちが質問したり興味深そうに色々な展示物を眺めたりする姿を見ることができました。来年度のツアーはお休み。皆様には祈りとお支えをお願いします。

南山教会 本間優太

原理対策委員会

本年度より委員会のメンバーに、待望の若い教師三名が加わり、現在十名の委員によって構成されています。また弁護士の先生が一名、ボランティアで陪席してくださっています。相談日は二か月に一度、名古屋中央教会の部屋をお借りして開いています。現在は年に六回、平均して一回につき二件の相談者が見えます。相談一件について二～三名の教師が応対します。

かつては大学の「原理研究会」を中心に若者が学校を中退、献身して親を泣かせたり、違法な物品販売、霊感商法などで社会問題となりました。その頃は「統一協会」（世界基督教統一神霊協会の略称、現在は世界平和統一家庭連合に改称）にマインドコントロールされた若者の親が相談者であるケースが多くありました。しかし、現在は親が知らない間に勧誘、多額の献金をさせられ、それに気づいた家族（子供）が相談に見えるケースが増えています。

本人を説得する以前の、相談者家族のカウンセリングをすることが実際問題です。家族が統一協会の実態を理解し、一緒にマインドコントロール状態に置かれている本人を救済、脱会へと導いていくことがこの委員会の究極的な活動目的であります。

委員長　片山博喜

中京教会

三位一体なる主の恵みと導きにより、二〇一八年に中京教会は伝道一二〇年を迎えました。名古屋英和学校（現・名古屋学院）と共に中京教会の歩みが始まったのが一八九八年でした。一九五四年に名古屋学院が移転した跡地に金城学院中学校が建ち、以来多くの金城生が中京教会へ集うようになり現在に至っています。一二〇年記念主日礼拝には、出身教師の小室尚子牧師（金城学院宗教総主事）を説教者にお迎えしました。名古屋学院名古屋中高の森田祐二校長は祝辞で「キリスト教教育が制約を受けた時代、中京教会があったからこそ名古屋学院の建学の精神を守ることができた」とお話しくださいました。中京教会に託されている大事な役割を改めて深く覚えた一二〇年記念となりました。中京教会には両校の生徒さんが様々な機会に来会されます。その中で心掛けていることは、中高生を一括りで見ないということです。〇〇さん、〇〇くんと、名前を覚え呼びかけて、主が送ってくださったかけがえない一人ひとりとの出会いを大切にしていきたいと願っています。

日本全国そして世界中から、主の導きにより中京教会へ兄弟姉妹が集められています。現住陪餐会員は九三名、礼拝出席は昨年度平均六二名です。高齢等のため、礼拝に集うことが困難になっている方々がいらっしゃいます。訪問聖餐や礼拝送迎奉仕により、神の家族として繋がり続けられるよう祈っています。年間主題は「イエス・キリストを証しする教会～一二〇年の恵み、そして将来へ」と掲げ、祈りを合わせています。花の日礼拝やクリスマスに際して百名以上来会する教会学校生徒と保護者の方々、祝福式や進級進学祝会で覚える教会員のお子さんやお孫さんなど約五十名のこどもたちへイエスさまをお伝えし、神の家族が将来も豊かに形成される幻を望み見ています。

牧師　松本周
牧師　松本のぞみ
牧師　金承哲

ここでの宣教　名古屋堀川伝道所

一九六九年十月に出された「日本キリスト教団名古屋堀川伝道所開設のご挨拶」に名古屋堀川伝道所の目指すところが明記されています。当時は靖国神社国営化法案が国会に提出され、安保条約廃棄か否かの問題を抱えた時代でした。この時期に①教団の歴史を振り返ること、②イエス・キリストの教会として世界の、アジアの中の日本及び日本人として歩むこと、③都市における教会のあり方を考えること、④苦しめる弱い人々と共に歩むこと、という課題をもって船出しました。伝道所の名前は、「都市の汚れを呑み込みつつ名古屋城から名古屋港に向かって流れる堀川」をとって「名古屋堀川伝道所」としました。

二十五周年記念誌の巻頭で清島恒徳牧師（初代鈴木正三牧師に続く二代牧師）は次のように記しています。「二十五年の歩みは……新しい教会形成への実験を積み重ねてきたといえましょう。その実験のために三つの約束事がありました。一、『戦争責任告白』にもとづく教会形成。二、無所有（教会堂等の財産を持たない）、三、経済的自立（教区等からの経済的援助を受けない、牧師は週日は一労働者として働く）。」

さらに、清島牧師は「このような実験は、自分たちだけのためのものではなく、全体教会へ仕えるためのものでもあります。その意味では既成教会の励ましと支持によって初めて成功を望むことができるのでありましょう。そして事実、多くの励ましと支持をいただいてきましたことを、心より感謝いたしております。」と記しています。私も同感です。

伝道所は二〇一九年に開設五十周年を迎えます。堀伝メンバーは開設時の方々と新人メンバーが半々ぐらいです。全員が司会を順番に担当しています。近接する福祉施設の利用者と介助者も参加され、和やかな礼拝です。二〇一八年十一月から礼拝場所が熱田区五番町十八―二十九に移転しました。「五番町集会室」と名づけています。

牧師　島しづ子

幼稚園問題委員会の活動

幼稚園問題委員会は北陸側の委員二名、東海側の委員二名の計四名の他に、有志による陪席者を加え、年に数回行っています。会場は東海側が主で、この数年は、名古屋教会（名古屋教会幼稚園）、熱田教会（堅磐信誠幼稚園）、世真留教会（世真留愛敬幼稚園）、金城教会（明星幼稚園）で開催しました。これまでの主なテーマは、①新制度（子ども子育て支援制度）移行に関して、②名古屋教会幼稚園「おひさまを守る会」活動支援、③休園中の幼稚園の諸課題共有、④中部教区総会資料の新制度移行幼稚園等の名称記入方法に関して、⑤幼児教育無償化への学びと対策です。④以外はこれからも継続すべき課題です。以上の取り組み以外にも、年に一度、日本基督教団全国教会幼稚園連絡会に委員が出席し、他の教区等から得た情報を持ち帰って共有します。また、陪席者（理事長や園長）からも貴重な提案をいただき、園のセキュリティーや就業規則、教会との協力関係等に関しても話し合う時を持っています。キリスト教保育の大切さと恵みをいつも思います。

委員長　小林　光

活かされています 伝道活動費援助

いつも魚津教会のためにお祈りいただき、感謝申し上げます。このたび教区よりいただきました伝道活動援助費を用いて秋の伝道集会を行いました。

九月十六日（日）、講師は金城学院大学の宗教主事、小室尚子先生でした。午前の礼拝は伝道礼拝メッセージをお願いし、初心者の方にも届くおられ、イエス・キリストのことをもっと知りたいと願っておられて、他の一人の方と聖書の学び会を始めることができています。

また英語礼拝もこれをきっかけに通常のプログラムとして再開し、月一回八～十名のメンバーで行っています。小さな群れにとって、英語礼拝に集われる方々があることは励みとなっています。

さらにクリスマスの報告も加えますと、秋の伝道集会の実に励ましを受けて今年は例年以上に、チラシで案内したことで十名の新来会者が与えられて、私たちにはちょっとした衝撃に似た喜びがありました。池に投げ入れた小石が波紋を広げるように幸いな広がりを見ながら、二年続けて何人もの教会員を天に送った私たちの教会は再び上昇の方向になりました。

二〇一九年も魚津教会は富山県の東にある教会として、神様に励まされて委ねられた宣教の働きに力を合わせて行きたいと思います。このたび与えられた実をまず神様に感謝し、ご奉仕下さった先生方に感謝し、教区がこのように助けて下さいましたことに心から感謝申し上げます。

牧師 ウェーラー・ルツ・エステル

明確な聖書メッセージをいただきました。午後は同じく金城学院の教育宣教師であられるマディソン・フラット先生によって英語礼拝をしていただきました。教会はこの日のためにチラシを四百枚配布し、祈り備えました。その結果、三名の新来会者が与えられました。その内の一人の方はその後継続して礼拝に出席して

世界宣教と中部教区 ～最近のトピックから～

二〇一八年十月に行われた第四十一回日本基督教団総会でインドネシアのミナハサ福音キリスト教会（GMIM：グミン）と宣教協約が結ばれました。インドネシアは島嶼国家で、国民の九割はイスラム教徒ですが、スラウェシ島北部地域のミナハサ一帯は逆にキリスト者が九割をしめ、信徒数二百万、神学校にも千人は在籍するというマジョリティの教会です（ちなみに日本基督教団の現住陪餐会員は八万人）。このミナハサ地域から日本に働きに来ている方々が茨城県、栃木県と三重県にコミュニティを形成して暮らしています。とくに茨城県・栃木県には三つの群れがあり、関東教区は十数年来、交流を持って来ました。国内では、もう一箇所鈴鹿市にコミュニティがありますが、わたしたちの教区は一部の教師しかその存在を知りませんでした。そこでわたくしたちの教区も鈴鹿におられるGMIMの方々がどのような礼拝のかたち、信仰生活を送り、何を願っておられるかを知らねばと考え、二〇一八年七月二九日に協約準備のために教団から秋山徹総幹事、加藤誠世界宣教幹事が来訪するのに、中部教区からも横山良樹（議長）、田口博之（副議長）、加藤幹夫（三重地区長）も合流し、二時間ほどの懇談の時を持ちました。関東教区に形成されている三つのコミュニティを含めて、彼らはまだ自分たちの礼拝場所をもっていません。鈴鹿の場合、職業訓練センターの集会室を礼拝場所として使っています。懇談は終始なごやかで時おり讃美歌をうたって進みました。日本語の堪能な方は少なく、三名の方が交代で通訳に立ちました。参加されたのはステンリー宣教師ほか三十名ほど。全体では百人近くが礼拝生活を守っておられるそうです。GMIMはオランダ改革派教会の流れを汲む長老主義の教会形成をしています。コロンと呼ばれる小教会単位での細胞組織のようなものが形成され、それが牧会・教理・家庭教育・社会教育的な役割を果たし、信仰共同体が、生活共同体とも密接に重なっているのです。彼らの一番の願いは、専用の礼拝場所・施設を手に入れることで、この宗教法人関係の手助けは教団事務局が相談にのり、中部教区、とくにお膝もとの三重地区は礼拝を通しての交流をもっていくことが第一歩という確認をいたしました。

すでに先のクリスマスにもご招待がありましてGMIMのクリスマス礼拝祝会に地元有志が、また鈴鹿教会のクリスマス・イヴ礼拝にも賛美に来てくださったと聞いています。

わたしたちの古くからの隣人である在日大韓基督教会との交流も宣教協約にもとづき、互いの総会を訪問し、年二回ほどの宣教協約委員会をひらいて情報交換をしています。近年は、教職間の相互交流の可能性や、災害時の支援について話し合いました。また在日大韓基督教会岐阜教会（高誠牧師）の献堂式が九月に行われました。阿部建設が施工し、機能的であり、かつ伝道姿勢の明確な会堂を創られたなあと、式に参加させて頂いて感激しました。岐阜地区からも多くの教師が参加しておられ、よい交流がもたれていることを主に感謝いたしました。

議長 横山良樹

鈴鹿教会クリスマス・イヴ礼拝での賛美

追悼 木下忠司教師

二〇一八年七月八日（日）、春日井教会の牧師就任式に出席をし、岐阜地区で十七年間同労だった木下先生が同じ地区に遣わされたことを喜び、握手を交わしました。

しかし、その二ヶ月後の九月一日（土）に、名古屋教会の田口先生から春日井教会の礼拝奉仕を二回出来ないかとの電話がありました。不思議に思った私は「どうしたんですか」と尋ねると、木下先生の体調が良くないとのことでした。さらに「どの程度良くないのですか」と聞き返すと、深刻な病のために予後一ヶ月と告げられていることを聞きました。

私が木下先生と初めて会話らしい会話をしたのは一九九九年十二月七日に行われた中部教区の按手礼式の時だったかと記憶しています。按手礼式後に行われた祝会の時、以前神学生時代に交流行事でお会いしていたことや、按手の重さと、その重責の重さについて共に話したことを覚えています。その後は、岐阜地区で十七年間の交わりをもたせていただきました。

当時、木下先生は坂下教会の主任担任教師でありましたが、二〇〇九年からは田瀬教会の代務者として、二〇一一年からは付知教会の代務も されるなど、岐阜地区だけではなく、中部教区でも「東濃伝道圏にこの人あり」という存在になられました。

九月三日（月）には、愛知東地区の教師会が「まきば」で行われ、その午前中に、教区議長である横山良樹先生からは、面会を希望する人は早く会っておいた方がいいことの報告がなされた午後には「今、ご家族と最期の時を過ごされているので、面会を控えるように」と田口先生からの連絡が報告されました。

その翌日、木下先生が召されたことを伝える教区からの連絡メールが届きました。

春日井教会での就任式に交わした握手が、先生との最後の時となりました。

新たに与えられた教師を、主のみもとにお送りした後の春日井教会へ、三回程ご奉仕させていただきました。木下先生によって信仰へ導かれた青年が、さらに献身しようと礼拝を中心とした信仰生活を送られている事に、私たち人間の思いを超えた働きを感じさせられています。

これまで木下先生との交わりが与えられた事を感謝すると共に、春日井教会の上に、遺されたご家族の上に神様の守りが豊かにあるようお祈りします。

小田部正一

高蔵寺ニュータウン 教会伝道開始50周年

11月25日に伝道開始50周年記念礼拝を行いました。教区諸教会から温かい祝福のお言葉をいただき15名の方が出席して下さったことに感謝いたします。

私たちの教会は1968年11月10日を伝道開始日として覚え10年ごとに記念行事を行ってきました。この日の準備会で日本基督教団による開拓伝道の見解・計画が示されたからです。同月24日の家庭集会は9名でのスタートとなりました。開拓期は定期的に1600〜2000枚のチラシを配りましたが、今もその精神を継承してチラシ配布を行っています。

今回の記念礼拝で横山良樹教区総会議長は、当初のメンバー黒沢礼子姉がかつて教区通信に寄稿された文章に言及されました。伝道開始時に教会役員経験者が集められ、クリスチャンホーム四家族が与えられていたという記述です。この特別な恩寵は15年後に第1種教会へと成長した大きな要因になりました。伝道地であるニュータウンの発展期と重なり、良き牧者たちに恵まれたことも幸いしたと思います。

現在、地域の過疎化が進み教会員も高齢化しています。しかし逆風の中でも初心を忘れず、教団信仰告白にあらわされた福音の豊かさを正しく語り続ければ道を誤ることはないでしょう。必ずさらなる祝福をいただけると信じます。

牧師　岩淵正樹

東濃三教会問安

昨年十月三十日、飛騨高山教会での常置委員会後、東濃の中津川市にある三教会（付知・田瀬・坂下）を問安しました。無牧・兼牧が長く、昨年まで木下忠司先生が三教会を回っていました。昨年、三教会がまとまって若林治郎教師を招聘し、若林教師を中心に近隣の教師たちの支援のもと、新しくスタートしたところです。

付知教会は幼稚園から始まった教会ですが、現在は幼稚園との関係はなくなっています。いくつかの教会がキャンプなどに使っていました。

田瀬教会は一九九五年に地区の中心部から高台に移転。美しい会堂なので、結婚式の申込が相次いだとのこと。会堂と敷地をどう残すかが課題。

坂下教会は岐阜地区では華陽教会に次いで歴史のある教会です。明治時代、ハワイから帰国した医師が町の役に立つものと考えて教会を作ったとのことです。

いずれも礼拝出席五〜十名の小さな教会ですが、集う兄弟姉妹の熱い祈りがあります。私たちも祈りで支えたいと思います。

石田聖実

篠田潔先生が召された。九四歳であった。先生は熱田教会出身であり、同じ美普教会のつながりで東京神学大学卒業後、一九五六年半田教会に赴任された。以来、一九九八年三月に隠退されるまで四十二年間、半田教会ひとすじに仕えられた。

篠田先生が赴任した当時の半田教会はまだ会堂もなく、戦後は信徒宅のお座敷教会の状態であった。ここから会堂建築、一種教会設立、知多北部伝道、知多南部伝道から知多奥田キリスト教センター建築にいたる一連の教会形成と伝道の働きは、先輩牧師をして日本基督教団の地方教会のひとつのモデルと言わしめた、と聞く。ちなみに先生は幼児洗礼をふくめると一三三名に洗礼を授けておられる。篠田先生の働きを支えられたのは先に召された秀子夫人であるが、教会員にも愛され、よく用いられた。生活を楽しむすべを知っておられた方で、五人の子どもを育て上げ、子ども会や、裁判所の調停員など地域にも仕えられた。篠田先生の教会なら、という言葉を牧師交替後、わたしは幾度も聞いている。能書家で、半田教会の説教看板は縦二メートル弱のものであったが、道を行く人が足をとめて独特に表現された聖句を含んだ書を見ていたものだ。先生は技術者あがりで、正確な細密画もこなされ、これらがあいまって晩年に絵手紙をよくされ、指導もしておられた。

しかし、伝道者としての篠田先生の真骨頂は福音を平易に、実存的に掘り下げて、わたしたちの日常に接続させて届ける「翻訳能力」の高さにあり、そうした賜物はラジオ放送「キリストへの時間」などでも遺憾なく発揮され、多くの支持者を持っておられた。

地区長、教区議長もつとめ、教区互助制度の整備にもあたられた。晩年になって中部教区をゆるがした愛知老人コミュニティセンターシルバーホームまきばの理事長に就任し、中部教区との関係改善、経営安定をなしとげられたのは篠田潔先生の卓越した人格あってのことと思い、遣わされた主の御名をあがめる。

横山良樹

【常置委員会報告】

九月以降の常置委員会決定事項（主なもの）

一、二〇一八年秋季教師検定試験受験合格者面接
一、二〇一九年春季教師検定試験受験志願者面接
一、按手礼式執行
一、代務者辞任承認申請一件
一、代務者決定承認申請一件
一、教師辞任承認申請一件
一、教師招聘承認申請二件
一、就任式一件
一、赴任費援助一件
一、敦賀教会基本財産（土地）処分申請書
一、蘇原教会境内建物（会堂）増築承認申請書
一、赤池教会境内建物（会堂）除去申請書
一、中濃教会境内建物（牧師館）除去申請書
一、御器所教会境内建物（牧師館）除去申請書
一、御器所教会境内建物（牧師館）改築承認申請書
一、名古屋堀川伝道所所在地変更届
一、鳴海教会教団伝道委員会開拓伝道資金援助金申請書
一、二〇一八年度退職一時金積立援助…三一教会・伝道所二九名に対して二〇九万円とする
一、二〇一九年度謝儀援助基準
一、二〇一八年度伝道活動援助費
一、二〇一八年度教区クリスマス献金目標額六十万円
一、二〇一八年度宗教教誨師活動支援献金目標額三十万円
一、二〇一九年度負担金算出案および負担金算定に関する謝儀・給与の控除額
一、二〇一八年度助合関係費六地区一四万八千円
一、「愛知老人コミュニティーセンター」運営委員選出

【教区だより】

◇誕生

＊南山教会　本間優太教師
実莉（みのり）ちゃん（十二月十三日生）
おめでとうございます。

◇ご結婚

＊碧南教会　池田春善教師
富子さんとご結婚
おめでとうございます。

◇逝去

＊春日井教会　木下忠司教師
＊富山新庄教会　坪内克浩夫人佐知子さん
＊隠退教師　原栄作教師夫人智津子さん
主の慰めをお祈り致します。

◇お見舞い

＊須藤茂明教師（尾陽教会）
ご快復をお祈りいたします。

◇名古屋堀川伝道所移転
名古屋市熱田区五番町18-29
牧師連絡先　熱田区三本松町21-15-二〇三
新宮東パークハイツ
TEL&FAX 052-872-5012

【教区事務所より】

◇第六十九回中部教区定期総会は五月二十一日（火）、二十二日（水）に名古屋中央教会で行われます。宿泊については各教会・伝道所でご手配ください。

◇教区への提出書類
教区への提出書類を三月初めに送付いたします。提出期日をお守りの上、早めも提出をお願い致します。

【バイブルキャンプ最終案内】

締切　2月25日　今すぐ申込を
日程　3月26日～28日
場所　大杉みどりの里（小松市）
講師　高田恵嗣先生（北陸学院）
参加費　一万円
問合せ　木下喜也委員長
joyjoy448@gmail.com

【第30回部落解放セミナー】

日時　3月9日（土）11時～4時
礼拝　敦賀教会にて
説教　西川幸作教師（中濃教会）
講演と現地研修…高浜町三松センター
講師　部落解放同盟福井県連合会　山下敬太郎さん